

## 【忍川】の特徴は！

- 1 1級河川
- 2 全長 約12.0キロメートル
- 3 水源 荒川六堰と熊谷・星溪園の「玉ノ池」
- 4 起点 熊谷市平戸
- 5 終点 中川水系・元荒川(鴻巣市袋)に注ぐ
- 6 水棲動物(主なもの)

コイ、フナ、ドジョウ、モツゴ、ナマズ、  
オイカワ、クサガメ、タニシ、食用ガエル、  
ミシシippアカミミガメ(ミドリガメ)、  
アメリカザリガニ

# 杣殿分水堰の成り立ち



忍川の水を堰き止め、農業用水として行田市西南部の水田をかんがいするために設けられた施設である。

昭和の新たな忍川開削工事に伴い、昭和9年に竣工した。忍川の元をたどると熊谷市内を流れる星川に行き着き、水源は熊谷市鎌倉町にある星溪園の「玉ノ池」であったが、大量の農業用水確保の上で荒川六堰からの取水になった。



上の図の堰の下流が忍川、右の水路が農業用水路である。この流れは旧忍川の流路が利用されている。

下の図は杣殿堰の下流であり、行田市内に注ぐ現在の忍川の流れである。

# 堤根1号橋の成り立ち



今は荒川からの水だが、昭和には星溪園の湧水を水源とした川は、忍川と名を変えて行田市を縦断して流れていた。

忍沼を出て、古墳群の北側から見沼代用水に流れ込んでいた忍川は、昭和7年の改修で新たに川が開削され新忍川となり、元荒川に注ぐ流れとされた。この橋はアメリカから輸入した古レール利用のアーチ橋で、昭和8年頃、同様の橋が忍川に7か所架けられた。